

伊達市におけるフードを通じた 経済活性化

札幌学院大学経済学部経済学科3年

佐々木ゼミナール

秋友暢 安藤翼 泉澤陸 高谷慶 西山達也 山本悠貴

はじめに

ウェルシーフード構想

伊達市概要

道の駅の創設と地
域経済の展望

おわりに～政策提言



1.はじめに

はじめに

○北海道経済の現状

少子高齢化、人口減少→全国平均を大きく上回る

建設業の不振、公共投資の削減

○北海道各地域の現状

経済格差の拡大、労働人口の移出、農家の減少

～経済循環の悪化、財政破綻の危険性～



地域経済活性化が必要

背景①

地域活性化への取り組み…

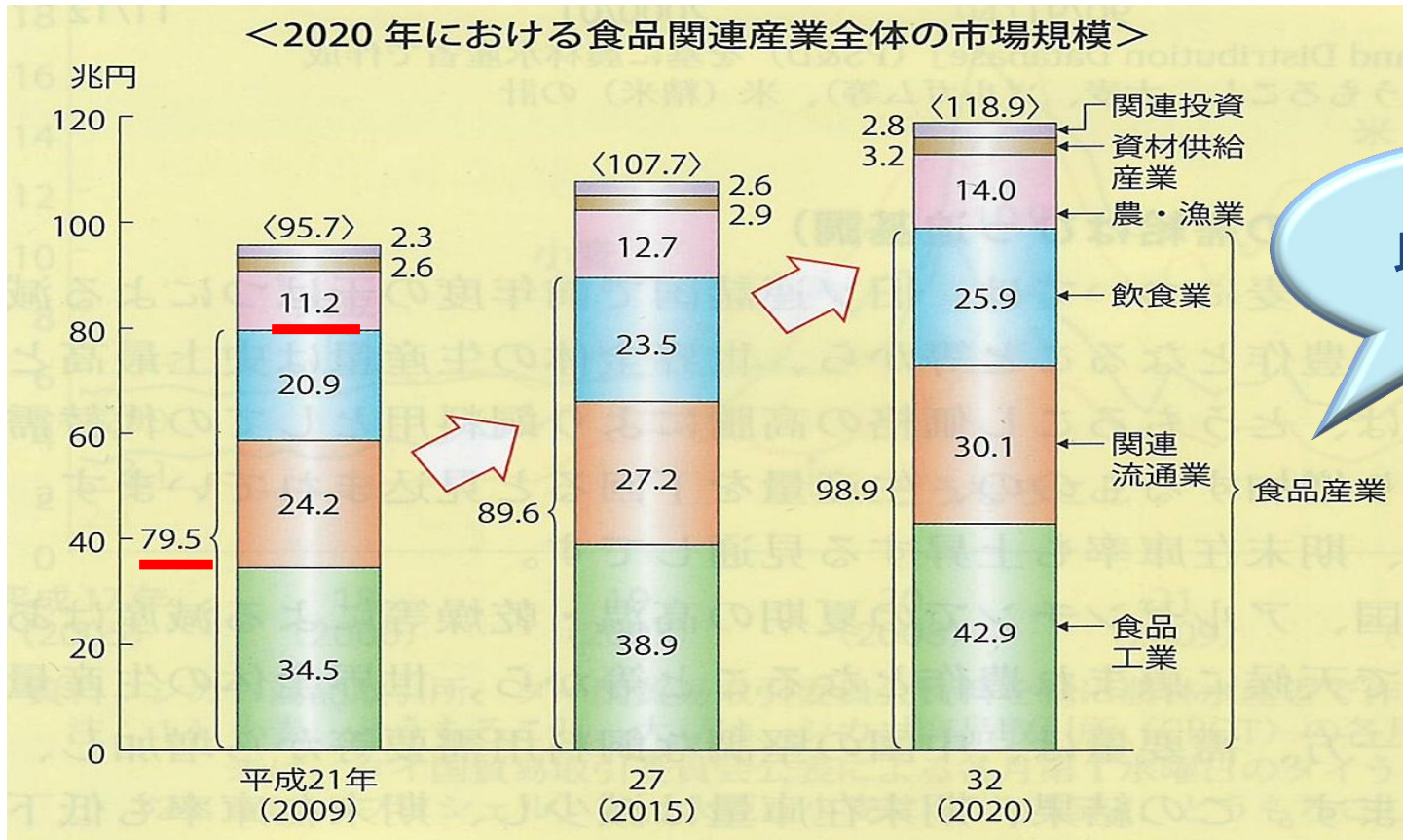
従来は一村一品運動の取り組みが盛んであった

○近年の様々な地域振興の動き

6次産業化、グリーンツーリズム、
産業クラスター、ブランド化

とりわけ**6次産業化**が政策的にも注目されている

背景②



2次産業・3次産業をとりこんだ6次産業化が必要

背景③

6次産業化の2つの展開方法

・「地域内発型＝地域密着型」

農業者が生産・加工・販売を一体化し所得向上を目指す

・「農商工連携型」

農業者が2次産業・3次産業と連携して地域ビジネスの展開や新たな産業の創出をはかる

6次産業化における課題

本来の6次産業化 → 6次産業化 = 1次産業 × 2次産業 × 3次産業

1次産業とリンクしていない例 6次産業化 ≠ 2次産業 × 3次産業

1次産業から2、3次産業への連携が重要

目的

○伊達市を取り上げる理由

- ・北海道における他の市町村に比べ比較的人口の維持がみられる。
- ・農業・食を通じた地域活性化を目指した取り組みが行われている。

～伊達市における具体的取り組み～ ウェルシーフード構想

本報告では伊達市におけるウェルシーフード構想を取り上げ、農業を核にした地域活性化の課題と展望を明らかにすることを目的とする

2.伊達市における産業構造の特徴